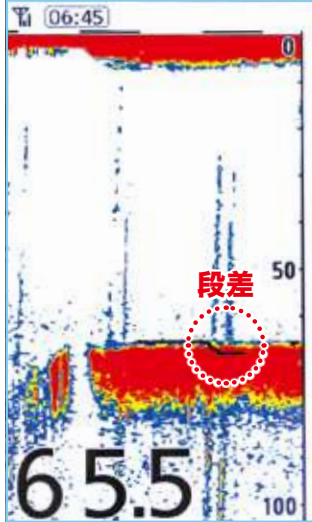


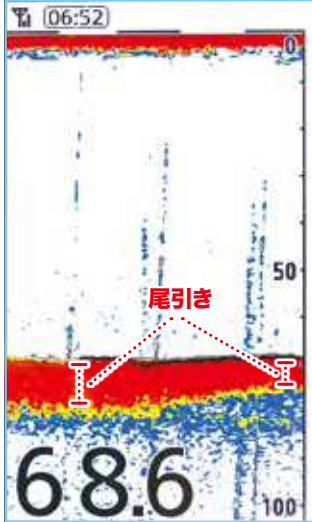
ボトムラインの微かな変化と
尾引きの長さを注視せよ！

画像A: 海底の落ち込み際



●微かな落ち込みに見えるが、スケールにあてると実際の落差は2メートル以上ありそうだ。こんなところに砂泥が堆積していれば、アマダイが潜んでいる可能性が高まる。

画像B: 尾引きの変化



●尾引きの幅が徐々に短くなっていく画像。これは硬い底質が軟らかな底質に変わっていく状況を示し「アマダイが好む砂泥地へ差しかかってきた」と推測することができる。

◎女性釣り師が手にした51.5センチ。このサイズが顔を出せばアマダイ釣りの盛期突入!



▲こまめに手返ししながら快調にアマダイを追加。お昼には10尾を数えた
▶オモリ60号の片テンピン仕掛け。ピース類も一切付けないシンプルな仕様



▲松田が大好きなオニカサゴもキャッチ
▶ソコイトヨリ、ホウボウ、キダイなど多彩な顔ぶれもアマダイ釣りの魅力
▼今シーズンも魚影抜群のアマダイ。週末は2隻出しの人気ぶりだ



Tankenmaru
CV-FISH & SMART
で広がる沖釣りワールド



presented by SHIMANO

Tankenmaru Style!

第43話 相模湾のアマダイ攻略
～地形と底質で読み解く好ポイント～

シマノのモバイル魚群探知器「探見丸」を使いこなして、沖釣りをもっと楽しく! それで連載「Tankenmaru-style!」のコンセプト。今回はシマノフィールドテスター松田竜也が相模湾のアマダイを探査!

◀ロッドはエキサイトゲームC14+のタイプ73M。カーボンソリッドの細身・軽量・強靱なフランクスは、手持ちで誘い続けるアマダイ釣りにも最適だ



▲探見丸のボトムラインに目を配りながら、アマダイのベストポイントを探っていく。時どき出現する魚群反応は、ほぼエサ取りだ



▲タッチドライブの巻き上げ感ももちろん、クラッチのオン&オフも片手で操作できるフォースマスター-600Dは、底ダチの取り直しも機敏に行える



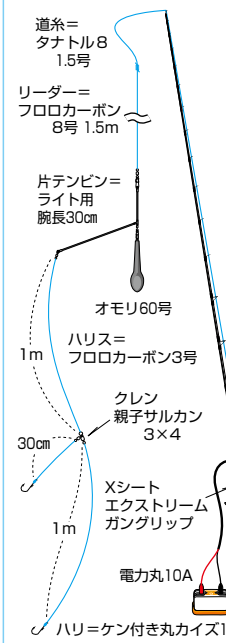
底生魚のアマダイやオニカサゴは魚探に映らない。だから探見丸の出番もない……。そう考えるのは早合点であり、非常にもったいない。
「探見丸に映る海底の様子を観察すると、底生魚が固まっていたり、そうな場所がある程度分かれます。今回は相模湾のアマダイで試してみよう」

最も心がけているのは積極的なタナの取り直し。これはタナぼけ防止と誘いを兼ねていて、すぐさま30センチ級のアマダイを釣り上げてみせた。
「アマダイは平坦な場所でも釣れますが、探見丸でボトムラインを見ていると、わずかに落ち込む場所があったりします。根が途切れて砂地に変わったピンポイントかもしれません、そうであ

最も心がけているのは積極的なタナの取り直し。これはタナぼけ防止と誘いを兼ねていて、すぐさま30センチ級のアマダイを釣り上げてみせた。
「アマダイは平坦な場所でも釣れますが、探見丸でボトムラインを見ていると、わずかに落ち込む場所があったりします。根が途切れて砂地に変わったピンポイントかもしれません、そうであ

10月下旬、そう語る松田竜也が乗船したのは小田原早川港。坂口丸のアマダイ乗合。当船が攻める小田原沖のポイントには地形が複雑で、探見丸が大いに活躍するという。
久保田幸司船長が流し始めた釣り場は航程5分の港前。水深50〜80メートルの急な斜面に根と砂地が混在し、所どころにアマダイの溜まり場がある。
全長2メートル、2本バリの片テンピン仕掛けを投入した松田は、オモリを底から1メートル切つてアタリを待つ。

松田竜也のアマダイ
タックル



竿=エキサイトゲームC14+ タイプ73M 195
フォースマスター600D H
「それからもう一つ覚えておくといけないのが、探見丸のボトムラインの下側に映る、尾引きの幅。底質判断に役立ちます」と松田は言う。
硬い地盤では反射が強くなって尾引きは長くなり、逆に軟らかな地盤は反射が弱く、尾引きは短い。巣穴を掘る習性がある

松田は大型こそアタらなかつたけれど、探見丸を活用しながら船中2番手、13尾のアマダイを確保。足取りも軽く、満足そうに下船した。
その読みはズバリの中、今シーズン最大となる51.5センチの特大サイズを女性が釣り上げ、47センチ、45センチの大型アマダイが船内で連続して沖揚がりの時刻を迎えた。

ればアマダイが潜んでいる確率も高いと感じますね」
松田のアドバイスを耳にしてふと頭に浮かんだのは、ウエブで公開されている水中動画。その一部に、岩礁際の砂泥地に掘った巣穴を出入りするアマダイが撮影されている。探見丸の画像Aはまさにそんなイメージの場所だったよううで、ひととき集中する松田にいい引きがきて35センチのアマダイが浮上した。
「それからもう一つ覚えておくといけないのが、探見丸のボトムラインの下側に映る、尾引きの幅。底質判断に役立ちます」と松田は言う。
硬い地盤では反射が強くなって尾引きは長くなり、逆に軟らかな地盤は反射が弱く、尾引きは短い。巣穴を掘る習性がある